

アルミプール 塗装仕様書

塗替 プールコート スペシャルAU

大同塗料株式会社

1. 塗装工程

工 程	品 名 (配合比)	希釈剤 希釈率(%)	塗回数 (回)	塗付量 (kg/m ² /回)	塗装方法	塗装間隔 (23℃)
素地調整	水洗後、旧塗膜のふくれや不安定な塗膜はディスクサンダーなどの動力工具を使用して入念に除去し、素地まで出します。同時に活膜部も全面もれなくディスクサンダーなどで粗面にします。シンナー拭きを行います。					
下 塗	プールコート スペシャル 塗替用プライマー (主剤:硬化剤=4:1)	プールコート スペシャルシンナー 5~15	1	0.12~0.14	はけ ローラー	16時間以上 7日以内
中 塗	プールコート スペシャル (主剤:硬化剤=4:1)	プールコート スペシャルシンナー 10~20	1	0.14~0.16	はけ ローラー	〃
上 塗	プールコート スペシャルAU (主剤:硬化剤=4:1)	プールコート スペシャルAUシンナー 5~15	2	0.13~0.15	はけ ローラー	〃
コースライン	プールコート スペシャルAU (主剤:硬化剤=4:1)	プールコート スペシャルAUシンナー 5~15	2	0.13~0.15	はけ ローラー	—
塗装後注水までの最低養生日数		気温	10℃	10日		
			20℃	7日		
			30℃	5日		

※ 防滑(ノンスリップ)仕上げの場合は、中塗り又は上塗り1回目塗装後、直ちに6~7号珪砂を散布(0.1~0.2kg/m²)し、乾燥後余分の砂を除去してさらに上塗り(1~2回)を塗装します。

2. 注意事項(プール塗装の重要なポイントとなりますので、施工前に必ずお読み下さい)

- (1) 排水直後、藻、水垢、チョーキング粉などの汚れを入念に除去して下さい。藻や水垢、チョーキング粉を残しますとそこから膨れや剥離が発生します。プールコート清浄剤を塗付してから高压水洗(10N/mm²(100kgf/cm²)程度)を行なうと比較的容易に除去できます。
- (2) 旧塗膜(エポキシ樹脂・ウレタン樹脂)の劣化・膨れ・剥離が著しい場合は、全て除去して下さい。また旧塗膜がアクリル・塩化ビニル樹脂の場合も、全て塗膜を除去して下さい。但し、剥離剤を使用して除去した場合はそれが残ると密着不良の原因となります。水洗やケレンを入念に行い、完全に除去して下さい。また、水洗不要タイプの剥離剤は完全に除去しづらいため使用しないで下さい。
- (3) 活膜と共に旧塗膜の膨れの激しい場所がある場合は、その部分の旧塗膜を全て除去して下さい。表面をサンディングするだけでは膨れ部分のみ除去されて基本的に付着力の弱い塗膜を残す事になりますので、新たな膨れが発生します。
- (4) 旧塗膜の活膜表面はディスクサンダーにP40～80のペーパーを取り付けて、十分に目荒して下さい。また旧塗膜の活膜表面のシンナー拭きはウエス又はモップにラッカーシンナーもしくはスペシャルシンナーを付け、塗膜を入念に拭き油汚れ(煤煙、人からの油など)を除去します。ウエス等が汚れたら直ちに交換して下さい。これらが不十分ですと密着不良による膨れや剥離の原因となります。
- (5) 下塗り塗料はフレーク顔料が入っていますので、表面が多少ざらざらした仕上りになります。ローラー塗りの場合はローラーネット等でよくしごきながら塗装し、缶の中も時々攪拌して下さい。
- (6) 塗装面に砂や異物を巻き込みますと突起となり、プール使用時に足の裏等を怪我する場合があります。砂や異物の巻き込みに注意し、最終塗装時には事前に全面をチェックして、サンドペーパーやスクレパーなどで突起物を除去してから丁寧に塗装して下さい。
- (7) 最終塗装の際、新しいローラーは使用しないで下さい。毛が抜けて突起の原因となります。止むを得ず新しいローラーを使用する場合は、事前にガムテープを使って抜けるだけの毛を抜き取ってから使用して下さい(毛の抜け難いローラーも市販されています)。
- (8) 各塗装前は結露や夜露、霜などにより表面が濡れていないかチェックし、濡れている時は十分乾燥させてから塗装を始めて下さい。又水分により塗膜が白化した場合は、シンナー拭きや研磨により白化部分を除去して下さい。
- (9) 屋内プールを塗装する場合は送風器を設置し、施工中・施工後にプール内の換気を十分に行って下さい。
- (10) 塗装後注水までの養生日数が不足しますと塗膜の膨れや剥離並びに早期チョーキングや退色の原因となりますので最低養生日数は厳守して下さい。

3. 下記のような場合、塗装は原則として避けて下さい。

- (1) 気温5℃以下の時や、湿度が非常に高い時。
- (2) 降雪雨時、あるいは塗料の乾燥する前にその恐れのある時。
- (3) 強風下、塵埃の多い時。
- (4) 炎天下、素材表面の温度が高く、塗膜に泡を生ずる恐れのある時。